

## 安全促進における日本に対する世界の期待

国際予防医学リスクマネジメント連盟 (URMPM)  
理事長 酒井

過去スマトラ大津波から 3 週間が過ぎました。この間、世界学会として欧米の多数の科学者との間で膨大な意見交換を行いました。それらの一部を世界学会ホームページに公開し、危機管理情報コーナーや英文ニュースレターとして掲載しました。

欧米の会員の声からは、安全に関する地球規模の共同という強い結束の機運が生じています。また、アフリカ、中近東からも世界学会の安全推進活動に対して賛同と期待の意見が届きました。

他方、欧米の多くの第 1 級科学者から、「世界の災害に関しては、日本の進んだ安全対策を世界が最も必要としている」という意見が圧倒的でした。また、地理学的に、インド洋の問題は日本が先頭たって様々な支援活動を展開することが望ましい、という多数の声が寄せられました。たまたま、昨日の CNN のニュースでも、ブッシュ元大統領とクリントン元大統領の共同会見で、「南アジアの災害安全対策はこの分野で安全対策が進んでいるが日本が指導権をとるべきである」という見解です。

このように、災害安全対策先進国として日本が世界第一級であるとの国際評価です。世界学会では 12 月 26 日を地球安全の日とすることが提案され、国際危機管理医学部会の設立をすすめてきました。この部会のインド洋大地震に対する活動は、日本での安全の科学技術と知識を中心に展開することに致します。日本の皆様のご支援をお願いいたします。